



2005年1月25日 第2005-41号

【発行】J A M

【発行責任者】大山勝也

【編集】社会政策局

Tel 03-3451-2586

E-MAIL : [syakai@jam-union.or.jp](mailto:syakai@jam-union.or.jp)

## 連合・第18回中央執行委員会 患者の立場を代表する中医協委員を確認

連合は、1月20日に開催された第18回中央委員会で、欠員となっていた中央社会保険医療協議会（中医協）の支払い側委員として、「医療情報の公開・開示を求める市民の会」事務局長・勝村久司さんの推薦を確認しました。（他1名の委員は連合・小島生活福祉局長）

連合は、これまで中医協に対して、被保険者代表の立場から委員の推薦を行ってきましたが、昨年発覚した日本歯科医師会贈収賄事件による委員辞任で欠員となっていました。

### 患者の声を反映できる委員を

中医協は、厚生労働大臣の諮問機関で、ほぼ2年に一度改定される診療報酬を審議し、治療、検査、入院費や医薬品などの価格を決定する重要な場です。委員は、保険者・被保険者・事業主を代表する支払い側、医師・歯科医師・薬剤師を代表する診療側と、公益代表の三者構成になっており、連合の代表も支払い側委員になっています。

02年の診療報酬改定では、日本歯科医師会側が※「かかりつけ歯科医初診料」の条件緩和を中医協委員に依頼し、連合推薦委員も収賄容疑で逮捕されました。

その後、中医協全員懇談会で公益委員の見解として「中央社会保険医療協議会のあり方の見直し」が示され、患者の声を適切に反映できる

委員を推薦するよう求められていました。

### JAM健保理事懇談会でも講演

中医協委員に推薦された、勝村久司さんは1990年に陣痛促進剤被害で長女を失い、医療裁判を通じてレセプト開示を求める運動に取り組んでいます。勝村さんはシンポジウム等で「子どもが生きていたら費やしたであろう育児にかけたはずの時間を医療情報の公開や医療事故をなくすための活動に使おうと思って活動を続けている」と発言しています。現在も高校教諭、同校バトミントンクラブの顧問を行いながら、医療事故・薬害被害者、陣痛促進剤被害者救済のための活動を続けています。

また、2003年8月に開催した、第6回JAM健康保険組合理事懇談会では勝村さんを講師に招き、講演を受けました。（講演録はJAMホームページに掲載中「え～1年に60回も捻挫するの」をクリック）

連合は、推薦に先立ちNPO団体などと連携して「患者本位の医療を確立する連絡会」を結成しました。患者本位の医療、良質な医療サービスの確立と安定した医療保険制度に改革するため、連合推薦委員と連携をはかっていきます。JAM社会政策局から1名がこの連絡会にオブザーバーとして参加します。

### 【※かかりつけ歯科医初診料】

2000年の診療報酬改定で、初診料とは別にかかりつけ歯科医初診料が導入されました。

患者の同意を得て、治療計画を作り、患者の歯の模型や口腔内写真を使用して患者に情報提供した場合に算定することができます。

報酬請求が複雑なため、2002年の改定で、口腔内写真撮影や歯の模型作成をすることなく、過去の症例写真を説明すれば請求が可能になるなどの規制緩和が実施されました。

かかりつけ歯科医初診料は、二重に初診料がかかることとなります。治療計画の説明や情報提供は歯科医として、やってあたりまえのことなのではないでしょうか。

